

第273回 安佐南区ケアプラン作成機関連絡会研修



災害への準備・業務継続計画(BCP)と 災害対策机上訓練



一般社団法人広島県介護支援専門員協会
常任理事 久保田 竜二
(災害支援ケアマネジャー)
(広島市東原・祇園東地域包括支援センター)

今日の目的



1. 災害時における介護支援専門員の役割りを理解する。
2. BCPの考え方や大切さを学び実際に活用できるようにしていく。
3. 平常時からの取り組み・連携について考える。

今日の内容

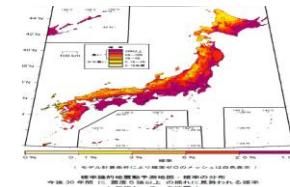


1. 災害支援についての振り返り
2. 業務継続計画(BCP)を振り返る
3. 机上訓練

なぜ、業務継続計画(BCP)が必要か？

それは、
日本は災害が非常に多い国です。

世界で発生した
震度6以上
約18%が日本で
発生



リスクマネジメントと危機管理

リスクマネジメント

想定されるあらゆるリスクを回避し、
「起きないように」する。

危機管理

すでに発生した事態(危機)に対して、被害を
最小限に抑え、可能な限り早期に回復する。

災害を見据えた「REアセスメント」=リスクアセスメント

医療や
介護の
状況

- ・特別な医療（透析、
経管栄養）
- ・酸素療法、人工呼吸器

住宅・
環境

- ・家屋が古い(S56以前)
- ・独居、家族状況

A D L
ほか

- ・移動方法
- ・認知症の有無

避難所?
停電時は?

避難方法
手段は?

危険場所
の把握

旧耐震基準	危険!	震度5程度の地震に耐え得る
1981年（昭和56年）建築基準法改正		
新耐震基準	要注意	震度6強の地震で倒れない。 (ただし法律的な拘束力が低い)
2000年（平成12年）建築基準法改正		
現行耐震基準	一応安全	震度6強の地震で倒れない。 規定が制定され、義務化された

アセスメント情報から、災害を想定した際にどんなリスクがあるか

災害を見据えた「REアセスメント」=リスクアセスメント

会議体

- ・地域ケア会議
- ・サービス担当者会議

地域との取組

- ・地域包括支援センターとの共有
- ・地域資源、ハザードマップ

職場の対応

- ・事業の運営
- ・参集規定

地域包括
ケアシステム
役割分担

資源
マップ

災害対策
マニュアル

災害支援を行う中で、

私たち専門職がどこまで取り組んでいくのか？

どういう思いで取り組んでいけばよいのか？



スフィア基準を少し知ろう！！

スフィアとは、

- ・災害や紛争の影響を受けた人びとには、尊厳のある生活を営む権利があり、従って、支援を受ける権利がある。
- ・災害や紛争による苦痛を軽減するために、実行可能なあらゆる手段が尽くされなければならない。

人道憲章と人道支援における最低基準

人道憲章

1. 尊厳ある生活への権利
2. 災害支援を受ける権利
3. 保護と安全への権利

権利保護の原則

1. 人びとの安全、尊厳、権利の保障を高め
人びとを危険にさらさないこと
2. 人びとがニーズに応じた支援を、
差別なく受けられるようにすること
3. 身体的または精神的な影響を受けた人びとの
回復を支援すること
4. 人びとが自らの権利を主張できるようにすること

クラスター・アプローチが必要



クラスター・アプローチとは、人道支援活動において、分野(クラスター)ごとに責任機関を定め、連携を強化することでより効果的な支援を目指す手法。

スフィア基準
居住スペース：避難所および
避難所先の居住地基準



1人あたり 最低 _____m²

寒冷気候では _____m²

もしも、南海トラフ巨大地震が起きたら… 146万5500戸 (M 9.0) (R7年1月1日) 271万3340人	
電 力 被災直後は広島県の約1割が停電。 電柱被害による停電の場合は復旧までに約1～2週間かかる。	ガス 被災直後は広島県の約15万1千戸で供給を停止。復旧までに約2週間かかる。
上 水 道 被災直後は広島県の約4割で断水。 復旧までに約4週間かかる。	下 水 道 被災直後は広島県の約3割が利用困難に。
死者 14,759人 負傷者 22,220人	建物全壊棟数 約7万棟
避難者 591,506人	

内閣府 H25報道発表「南海トラフ巨大地震の被害想定について」「広島県想定との比較」

災害に備えて自分たちが出来ること

・必要な備えを行う

●いつ使う？(When)

災害直後にいるものなのか、1週間後にいるものなのか。

●どこで使う？(Where)

自宅で使うものなのか、避難場所等で使うものなのか。

●誰が使う？(Who)

自分のためのものなのか、家族で使うものなのか。

●何を？(What)

●なぜ必要か？(Why)

●どうやって使う？(How)

普段から使っている物でないと、いざという時に使えない。

BCPが重要な理由

- ・介護サービスは、利用者、家族にとって必要不可欠
- ・安定的・継続的に提供されることが重要
- ・必要なサービスが中断しても早期の業務再開を図る

参考:令和2年12月14日付厚生労働省「介護施設・事業所における業務継続ガイドライン等について」

自然災害BCP

防災・減災

事業継続、早期復旧

感染症BCP

感染防止策が重要

業務の縮小→最低限の継続

イメージとしては…

平常時 ————— 発災時 ————— 復旧時



BCP（業務継続計画）

個別避難計画

福祉避難所の運営

防災計画、災害対応マニュアル

地域の防災訓練

業務継続計画(BCP)の作成手順

- ① ガイドラインとひな型入手する。**具体的には！**
- ② ハザードマップ等で自事業所の災害状況を確認する。
- ③ 自事業所の特徴を考える。
(重要な業務とリスクの洗い出し)
- ④ 災害を想像して業務をどう稼働させるかを考える。
- ⑤ 平時の備えは災害被害からの対応から準備していく。

重要な業務とリスクの洗い出し

- ・居宅介護支援事業所、地域包括支援センター、介護サービス事業所等の重要な業務とは？

◎しかし、優先すべきは自分…
そして家族を守る



考え方①

- 皆さんの事業所が、災害になりました。
- ・その災害は何ですか？
 - ・何が困りますか？
 - ・どうしたらその困りごとが解決しますか？
 - ・災害にならないように何を準備したらよいですか？

考え方②

- 皆さんの事業所に起った、災害について
- ・発生直後の優先業務を記入しましょう。
 - ・その業務について、どのように実施していきますか？
 - ・必要な資源(物)は何ですか？
 - ・その他の業務はどうですか？

考え方のまとめ

- ① まずは、BCP作成に着手する！
- ② 災害が起こる前の準備が重要！
- ③ 最初から完璧を目指さなくてもよい！
- ④ 平常時にこそ、準備を進める！
- ⑤ 1人で考えない！



3. 机上訓練

机上訓練は、緊急時の対応ルールが定まった段階で、災害状況を想定して机上で対応(あるいは対応を模擬)する形式の訓練です。

机上で実施するため、事業者間の取決について、机上や頭の中で処理する部分を検証することができます。

